

2021年度 日本工学院専門学校											
音響芸術科											
映像音響1											
対象	1年次	開講期	前期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	横田 実			実務 経験	無	職種	教員				
授業概要											
この科目は、映像・音声に関する様々な基礎的知識を学ぶことで、就職の幅を広げることを目的とします。この授業を学ぶことによって、将来音響技術者だけでなく様々な映像制作現場で働くに十分な知識を身につけ、また近年求められている音響と映像の双方を理解した技術者の育成します。本講義は対面式とオンライン式を交えながら進めていきます。											
到達目標											
この授業ではポストプロダクション業務にとって必要となる映像の基礎知識を学び、音響業界のみならず映像関連エンジニアへの就職が可能となるレベルの人材づくりを目標とします。授業の中では極力機材に触れ、分解してその構造を実際の目で確認することで体感的に覚え、それを講義によって補足することで確実に知識として定着させることを目指します。											
授業方法											
機械の内部構造について直接目で見たり触れたりする機会が少ない学生達に、出来る限り実機を用いてあるいは映像資料を用いて目で見ると同時に授業展開を行います。また、オンデマンドでの講義動画も並行して作成していくことで、学生が復習しやすい体制を整えます。											
成績評価方法											
試験・課題 70% 試験を総合的に評価する 平常点 30% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する											
履修上の注意											
板書を多用はするが、板書だけではなかなか理解できないので、話をよく聞くことを第一に考えてください。話の中で出てくる用語や分からない事はそのままにせず、その場で質問することが大切です。目で見ても、触れても、体感して覚えることが多い科目なので休まないようにすることが大切です。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができません。											
教科書教材											
参考資料のプリントを適宜配布します。											
回数	授業計画										
第1回	映像作品の見方：様々な映像作品を通して、作品の意図や制作テクニック、映像制作における考え方などを学ぶ										
第2回	フィルムの基礎：フィルムカメラの構造から撮影スタイル、音声記録方式等について理解する										
第3回	電波の基礎とテレビの歴史：電波の周波数による特性、変調方式およびテレビ技術の歴史を学ぶ										
第4回	日本の放送方式：SDTVからHDTV、4K、8Kなどの放送方式の規格の詳細について学ぶ										
第5回	アナログコンポジット信号：同期信号、変調方式、インターレースとプログレッシブなどの技術について学ぶ										
第6回	測定器の見方：実機を用いて、コンポジット信号について学ぶとともに、測定器の見方を学習する										

2021年度 日本工学院専門学校	
音響芸術科	
映像音響1	
第7回	各種映像信号について：セパレート信号、コンポジット信号および各種デジタル映像信号について学ぶ
第8回	タイムコード：ドロップフレームとノンドロップフレームの違いについて理解する
第9回	VTRについて：磁気記録方式からVTRの記録フォーマット、CTL信号などについて学ぶ
第10回	VTR編集とノンリニア編集：アッセンブル編集とインサート編集、リニア編集とノンリニア編集の違いなどを理解する
第11回	映像信号の接続方法：インピーダンスについて学び、映像信号の接続の仕方について理解する
第12回	テレビカメラについて：テレビカメラの構造、取り扱い法について実機を用いて学ぶ
第13回	色温度と被写界深度：実機を用いて、色温度や被写界深度について学ぶ
第14回	画像および映像ファイル形式：各種CODECについて、その種類と可逆・非可逆についてを学ぶ
第15回	復習：この授業の内容についてもう一度反復復習を行い、理解を深める